

【成果情報名】 カーネーション多年切り栽培における切戻し後の施肥開始時期

【要約】 カーネーション「レジーナ」の多年切り栽培について、切戻し後、施肥開始が早いほど萌芽径は大きくなり、萌芽箇所での茎曲がり改善される。また、6月10日切戻しの場合、8月中旬施肥開始では切り花品質が低下するため、7月中旬から施肥を開始する。

【キーワード】 カーネーション、多年切り、施肥開始時期

【担当】 総合農林試験場 作物園芸部 花き科

【連絡先】 電話 0957-26-3330、電子メール hazeyama@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】 花き

【分類】 普及

【背景・ねらい】

カーネーションは本県花き生産における主要品目の1つである。現在1年1作の作型が定着しており、毎年高い苗を購入することが農家の経営を圧迫し、また、近年中国からのカーネーションの輸入激増に伴う国際競争も激化している。

これらに対応するため、低コスト・省力生産技術の確立につながる多年切り栽培や疎植栽培による種苗費の低減などの技術を確認し、カーネーション産地を強化する必要がある。しかしながら、多年切り栽培では欠株や秋に切り花重の低下等の問題がみられる。今回は、切戻し後の施肥開始時期が切り花品質に及ぼす影響を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

1. 切戻し後の施肥開始が早いほど、平均萌芽径が大きく、萌芽径の大きい芽の割合が多くなり萌芽箇所での茎曲がりが軽減する（表1）。
2. 6月10日の切戻し後、8月中旬施肥開始では輪数が少なく茎が柔らかくなる。下垂度がすぐれる7月中旬から施肥を開始する（表2）。

【成果の活用面・留意点】

1. 芽整理は、9月5日に1株8本芽を残す方法で行った。

[具体的データ]

表1. 「レジーナ」の切戻し後の施肥開始時期の違いが萌芽に及ぼす影響

	萌芽数/株	平均萌芽径	萌芽径					
			～1.4mm	1.5～1.9mm	2.0～2.4mm	2.5～2.9mm	3.0～3.4mm	3.5mm～
6月中旬施肥開始	16.0	2.11 mm	0 %	37.5 %	40.6 %	12.5 %	7.8 %	1.6 %
7月中旬施肥開始	16.3	1.98	18.5	24.6	40.0	16.9	0	0
8月中旬施肥開始	15.5	1.88	22.6	45.2	8.1	24.2	0	0

注1) 定植 2003年6月27日

注2) 切戻し 2005年6月10日

注3) 施肥量 10a当たり

実施期間	6月中旬施肥開始区			7月中旬施肥開始区			8月中旬施肥開始区		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
切戻し後 ～7月15日	kg 1.8	kg 1.0	kg 2.0	kg 0	kg 0	kg 0	kg 0	kg 0	kg 0
7月16日～ 8月20日	1.8	1.0	2.0	1.8	1.0	2.0	0	0	0
8月21日～ 9月20日	3.0	1.6	3.4	3.0	1.6	3.4	3.0	1.6	3.4

*2 供試肥料の保証成分 (N-P₂O₅-K₂O) : OKF-1 (15-8-17) を使用

注4) 萌芽調査 2005年8月26日、各品種4株、全ての萌芽の第1節目の直下の径を測定した

表2. 「レジーナ」の施肥開始時期の違いによる切り花品質

	採花月	採花開始	切り花重	切り花長	輪数	下垂度	1株当りの 採花本数	採花本数 合計
6月中旬施肥開始	10月	10/20	22.1 g	57.5 cm	3.4 輪	2.6	0.5 本	0.5 本
	11月		24.7	61.1	3.6	2.5	0.8	1.3
	12月		27.2	69.2	3.0	1.2	0.7	2.1
7月中旬施肥開始	10月	10/20	22.4	55.4	3.8	2.0	0.5	0.5
	11月		25.4	61.4	3.6	2.1	1.1	1.6
	12月		27.6	67.6	3.4	1.2	1.5	3.1
8月中旬施肥開始	10月	10/14	21.0	53.5	2.5	5.5	0.2	0.2
	11月		25.0	65.6	4.1	2.3	0.7	0.9
	12月		29.0	64.0	3.6	1.2	0.5	1.4

注1) 1区当たり12～16株、切り花重は50cmの長さで調査した。

注2) 下垂度：先端から50cmの位置で水平に保持し下垂した角度。90° までを10° ごとに9段階に分類し、0° ～10° を1、20° ～30° を3とした。

[その他]

研究課題名：施設花きの省力生産技術の確立

研究期間：2001年～2005年

予算区分：県単

研究担当者：樫山妙子、諸岡淳司